

(人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

『統合失調症早期患者の社会機能的転帰の予測指標の長期調査』

本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【対象となる方】

2000年5月1日より2005年3月31日までの間に、精神疾患患者の認知機能評価のための研究に参加された方

【研究期間】

研究実施許可受領後(2024年4月1日まで)より2029年3月31日まで

【研究代表者】 吉村直記

【研究責任者】 病院精神リハビリテーション部 部長 吉村直記

【試料・情報の利用目的及び利用方法】

研究課題名:

統合失調症早期患者の社会機能的転帰の予測指標の調査

目的:

精神疾患患者の多くに認知機能障害が見られます。認知機能の中でも意味記憶の構造化は、生活の質まで含めた機能的転帰(自立した生活、労働、娯楽などの社会的予後)と関連することが報告されています。精神疾患患者においては、意味記憶の構造化の推定に実験的手法は適さず、その代わりに一般的な認知機能検査バッテリーに含まれる語流暢性課題の発話が用いられます。

手法の制約などから、意味記憶の構造化と機能的転帰との関連を個人レベルで調べられませんでした。しかし近年、様々なテキストマイニング手法が開発され、個人レベルでの意味記憶構造化を調べることも可能になりました。そこで本研究では、語流暢性課題による意味記憶の構造化の関連について、テキストマイニングの手法を用いて検討することを目的とします。この研究により、患者それぞれに合わせたリハビリに向けたフィードバックを提供できるようになると考えられます。

本研究課題では、福島大学から健常者データをうけ、2次利用します。そして、患者の記憶の組織化の水準を健常者と比較することができるようにします。

期間:

研究実施許可受領後より2028年10月31日まで

【利用又は提供する試料・情報等】

情報等：診療録(年齢、性別、推定知能指数)、語彙流暢性検査の検査結果

【既存試料・情報の提供のみを行う機関】

福島大学 研究責任者 住吉チカ

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院

所属 精神診療部 氏名 和田歩

e-mail: a.wada@ncnp.go.jp

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局

e-mail: ml_rinrijimu@ncnp.go.jp